

2022年度 児童デイサービス さんこま(放課後等デイサービス)自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			訓練指導室として、約37㎡あり、十分な広さを有しています。屋外の活動場所もあり、子ども達が十分に体を動かすことができます。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			教育領域、福祉領域、ホースセラピー、保育士の専門スタッフを配置して個別のニーズに寄り添った対応をしています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			子どもが主体的に活動に取り組むことができるように環境を整備しています。 バリアフリーについては、完全には対応できていないが、可能な範囲で、手すり等の設置を行い、設備で対応できていない部分については、スタッフがサポートして対応しています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			子ども一人ひとりにあったプログラムを構成し、実施をしています。毎回、実施した内容を振り返り、成果と課題を明らかにして、次のプログラムに活かしています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			評価表による保護者の評価の他に、保護者に対して個別にヒアリングを行い、保護者の意見を把握し、プログラム等の改善に活かしています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			保護者の評価、事業所の自己評価を、事業所の質向上に活かしています。 また、保護者の意見や事業所の取り組みについて、ウェブサイトや各種媒体などで公開しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			外部専門家を招いてプログラム質向上につながる研修会や勉強会を実施しています。また、その際に、当事業所に対する助言をいただき、業務の改善につなげています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			外部で行われている研修会等に積極的にスタッフが参加し、支援の質の向上に努めています。又、外部専門家を招いて勉強会等も実施しています。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			子どもの個別の課題や特性を把握し、子どもと保護者のニーズも聞きながら、随時プログラムに反映すると共に、支援計画を作成しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか			○	現在は、標準化されたアセスメントツールは使用していませんが、現在感覚統合理論に基づいたアセスメントツールを適宜使用しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			プログラム実施毎に改善点を洗い出し、次のプログラムの立案に活かしています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			子どもの成長過程や興味関心、季節などを考慮して、プログラムを構成しています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			利用日の形態に応じて、活動プログラムの内容を変えて支援にあたっています。
適切な 支援の 提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			子どもの課題や特性に合わせて、個別活動と集団活動を選択して実施しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			プログラムの実施前に、スタッフ間でプログラム内容と役割分担について確認を行っています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			プログラム実施後に、実施上の課題や気づいた点を出し合い、プログラムの改善につなげています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			プログラムの内容や子どもの様子などの記録を毎回とり、支援内容の改善にも活かしています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			モニタリングを6ヶ月に1回実施して、その内容を支援計画の内容の反映させています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○			子どもの課題や特性によって、様々な活動を組みあわせてプログラムを提供しています。
関係機 関や保 護	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			子どもの状況をよく把握しているスタッフが、会議に参加しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			学校との情報共有を密に行い、学校の状況に合わせて利用日や送迎時刻の調整などの対応をしています。

者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			釜石・大槌地域障がい者自立支援協議会 医療的ケア児等の未来を考える会に参画して、関係機関と連携した支援体制の構築を図っています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			必要に応じて、保護者、保育所等や相談支援事業所等を通じて支援内容や子どもの状況などの情報共有を行っています。また、適宜、関係者間で支援者会議を開催し、情報共有を図っています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			障がい者自立支援協議会などを通して、障害福祉サービス事業所等と連携が図れる関係を構築しています。相談支援専門員とともに支援内容の情報共有を図っています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			研修会などに積極的に参加をしています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○			近隣にそれらの施設がないため、交流の機会はありませんが、イベントなどを通じて、障がいのない子どもとの交流の機会を設けています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			釜石大槌地域障がい者自立支援協議会子ども支援部会、釜石市子ども・子育て会議にメンバーとして積極的に参加をし、地域の支援機関と情報共有、連携を図っています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			プログラム実施で気づいた点や子どもの発達の状況について、適宜保護者の方に伝えていきます。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			障がい児支援に関する勉強会などを開催し、子ども支援に関する共通認識を持ってもらい、子どもに寄り添った環境調整や関わり方などをスタッフと共に模索する中で、対応力の向上を図っています。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			運営規程と利用者負担に合わせて、福祉サービスの制度についても、保護者の方に個別に説明を行っています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			定期的に、個別にヒアリングを行い、現在抱えている課題の他にプログラムに対しての要望なども出してもらっています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	父母会、保護者会という形で、保護者同士の集まりは設けていません。しかし、子どもとの関わり方を学ぶ勉強会において保護者同士の交流を図ったり、別々に来訪した保護者の方がゆったりと時間を過ごして、自然と会話が生れるような場を設定しています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情解決責任者において、苦情等への対応する体制を整備しています。また、子どもがプログラムを受けている際に、保護者から相談などができる状況を用意しています。その内容はスタッフ間で共有し、対応しています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			子どもの発達や感覚統合理論等についてまとめた通信、メールマガジン、ウェブサイトでのコラムなどを発行しています。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			外部への情報提供は、本人や保護者の同意が無い場合は行っていません。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			子どもの特性に合わせて、言語情報や視覚情報(文字、イラストなど)など使い分けて、伝え方を工夫しています。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			イベントに地域の方や地域の子どもも参加出来るように案内をしています。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			災害時、緊急時、インフルエンザ対策など必要に応じてマニュアル作成と対応の訓練などを行っています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			大雨や台風、地震などを想定した避難の訓練を年2回行っています。

対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		虐待防止に関連する外部の研修会へスタッフを参加させ、その内容をスタッフの間でも共有してします。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○	身体拘束を行う必要性がないため、支援計画への記載は行っていません。 プログラムを実施する上で安全確保などで必要となる身体接触についても、本人への同意を得てから行っています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			○	医師の指示書に基づく対応はしていませんが、必要に応じて保護者からの情報提供を元に対応をしています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハットの報告行い、スタッフ間でその内容の共有を図っています。